

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2774800383		
法人名	株式会社 ラポール		
事業所名	グループホーム和み庵		
所在地	松原市北新町1-3-18		
自己評価作成日	平成 24年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成 24年 7月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者みなさんが毎日落ち着いて暮らし、楽しく過ごせるように日々利用者の訴えや要望に対して出来る限り応えています。又、地域との交流や行事、外出に力を入れています。</li> <li>・日中のスタッフの人数が充実し、常に利用者みなさんに目が届くようにしています。</li> <li>・毎日利用者みなさんが持っている能力を活用し、みんなで協力しながら生活しています。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774800383&amp;SGD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774800383&amp;SGD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 24年 6月 20日

市内初のグループホームとして10年前に開設した1ユニットのグループホームです。ホームは最寄り駅から1分の閑静な住宅地で、風通しと見晴らしの良い場所にあります。ホーム前庭にはベンチを3つ置いており、道行く人々が座って話をしていく場所として活用され、利用者との交流の場にもなっています。2階建てのホームにはエレベーターが設置され、自由に行き来ができます。ホーム内は清潔で明るく家庭的な雰囲気があり、職員はやさしく活発で利用者と家族のような関係を築いています。ホームでは毎日のように散歩や買物に出かけ、馴染みのスーパーや銭湯を利用したり、電車に乗ってデパートに出かけることもあります。職員は利用者と共に新鮮な食材を選んで3食ともに手造りをしています。おやつ作りをしたり、外食をしたり、喫茶店でくつろいだり、食の楽しみを大切にしています。地域との連携も良く、小中学校との交流やボランティアの協力を得るなどして利用者の持てる力を活かした支援をしています。職員の定着率が高く研修にも力を入れており、今後さらにサービス向上が期待できるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を目の付きやすい場所に掲示している。	管理者と職員は「利用者及び事業所全体が、地域に役立ち貢献できる活動へ積極的に参加し、人の輪、地域の輪を大切にします」とした事業所理念をホーム内に掲示し、共有しながら日々実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校や中学校の行事に参加したり、当ホームにも子ども達が遊びに来てくれたりと交流がある。又、民生委員を通じて地域への行事にも参加している。 毎日の散歩で通る方と挨拶を交わし、顔馴染みが多い。	職員は、利用者と共に毎日のように散歩や買物に出かけて馴染みの関係を作っています。また、地域フェスティバルや運動会などの学校行事等にも参加したり、学校からの施設訪問依頼を受けて学童と交流を深めたりしています。近隣の喫茶店やレストランに出かけて雑談をしたり、ホームにボランティアを招いてギター演奏会や漫談、日本舞踊等を楽しんだりするなど、地域との繋がりを大切に利用者支援をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	最寄り駅、事業所周辺の清掃活動を利用者と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、市の方々の意見を聞き又情報を収集し、利用者が生き生きと楽しく生活が送れるよう、地域の行事等にも参加している。	2カ月に1回、年6回の会議を開催しています。メンバーには利用者家族が複数参加、民生委員、市職員の参加があります。会議では職員が利用者の日常の様子を分かりやすく報告して、事故防止などの対策等についても話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会の時に色々な情報交換を行っている。	市担当者とは、日頃から情報交換や利用者支援についての相談をしています。市内に開設しているグループホームの交流会が開催できるよう、市に協力要請をしたりしています。	管理者は、市内の4つあるグループホームが、同業者として経験の交流ができるように今後も働きかけを続ける予定です。今後の取り組みが期待されます。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束ないケアに努めている。しかし今までの経験上、玄関は事故防止のために施錠をしている。	管理者自らが外部研修を受け、内部研修を開催して職員に研修の内容を伝達するなど、職員の意識を高めて「身体拘束をしないケア」に努めています。また、「してはだめ」などの禁止用語は極力使わないように職員間で申し合わせしています。ホーム内のエレベーターや階段では自由に昇降できますが、1階玄関には利用者の安全確保を理由として終日施錠をしています。	利用者の安全確保を十分に検討した上で、玄関の鍵は内側からは開けられる鍵に変更できるように取り組むことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加と内部研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を用いて、分かりやすく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に現状の報告や要望等の聞き取りを行っている。又、運営推進委員会で報告を行っている。	利用者・家族には介護計画作成時にカンファレンスに参加してもらい、それぞれの意見を聞いてプランに生かしています。運営推進会議には、複数の家族が委員として参加できるようにしています。月に1回『和み庵たより』を家族に送付し、ホームの行事や利用者の状況を報告して意見、要望を聞いています。また、家族の来訪時には、職員から声をかけて意見や要望を聞くようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回のスタッフ会議の時に意見交換を行っている。	管理者は、日常的に職員の意見を聞き運営に反映しています。職員は毎日の申送りや毎月の定例会議で利用者支援について積極的な意見を出しています。職員からの提案を受けて浴室の手すりの設置など、改善することが決まっているものもあります。また、代表者はホームに出向き、利用者や職員の声を直接聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望公休が取りやすく、労働時間も短いので身体的に無理なく働ける環境作りに努めている。また会議等の中で職員全員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修の開催と外部研修への参加を促すために案内を周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は交流できる機会が作れていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談等があれば早期に面談を行い、解決できるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談等があれば早期に面談を行い、解決できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、他の相談機関を紹介したり、専門機関に繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持ち、ホームの一員である事、人の為になっている事を実感してもらっている。基本、出来る事は何でも職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会の行事には出来る限り家族が参加できるように日程を調整し、一緒に楽しい一時を過ごしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーに買物へ行き、知り合いの方と話をしたりしている。	利用者は、馴染みのスーパーに買物に行き知り合いと話をしたり、家族の協力を得て昔馴染みの銭湯に出かけたりしています。職員と電車に乗って出かけ、馴染みのデパートでウインドウショッピングを楽しむこともあります。また、職員は利用者が日頃会えない友人や家族に手紙を出したり、年賀状を書いたりする支援もしています。	職員は、利用者が昔馴染みの関係を保ち、友人や近隣関係を継続できるように、今後も積極的に取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をきちんと把握した上で2グループに分かれレクリエーションを行ったり、時には全員で輪になって楽しく出来る場面の設定も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の案内を出したり、退所し入院されている方の面会へ行くなどして、契約終了後も関係を断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、本人に確認しながらサービスを行っている。困難な場合は家族やスタッフ間で相談、話し合いながら決めている。	利用者一人ひとりの意向を確認しながら支援をしています。日常生活では利用者一人ひとりが意思表示をはっきりとしています。介護計画などで判断の難しい課題がある場合には、家族と職員の意見を交えて検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、面会時に利用者及び家族より生活歴等は必ず聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時等に利用者の心身状態の変化等を確認し、現状把握に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたり、本人及び家族と話し合い、又職員同士で意見を出し合い計画に反映している。</p> <p>毎日の申し送り時に計画に変更等がないか検討している。</p>	<p>介護計画書の作成時には、本人と家族を交えて話しあっています。また、本人及び家族の意見を具体化する為に、職員間で再度話し合い、対応方法などを決めていきます。介護計画書は毎日の申し送り時や毎月の定例会議で変更の必要について確認し、必要があれば随時見直しています。アセスメント、モニタリング記録は整備して職員間で共有しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を確認し、必要な時は介護計画を見直し変更している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>未実施。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>今年度は地域のボランティアが来て、レクリエーション等に行っていないが、地域へ出向いて行事に参加し、楽しんでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科の往診と週1回訪問看護及び歯科の往診にも来てもらっている。主治医、訪問看護は24時間365日緊急時の対応が可能である。	本人や家族の希望する医療機関で適切な治療が受けられるように支援しています。また、希望者には月2回の内科医師及び精神科医師の往診、週1回の歯科医師往診及び歯科衛生士の訪問指導を受ける事ができます。また、緊急時には24時間オンコールの医療連携支援を受ける事ができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護のサービスを利用している。訪問時及び電話連絡にて相談、適切な看護等を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、状態を把握するために定期的に面会し、家族や病院関係者と情報交換をし、退院等の検討、確認をするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化等でグループホームでの生活が困難になった場合の対応方法について説明している。 終末期の対応未実施。	入居時には、重度化した場合の対応について、本人や家族に説明をしています。終末期の看取り支援については現在のところ行う方針はありませんが、介護度が高くなってもホームではできる限りの支援をしています。さらに医療依存度が高まった場合には、家族、主治医と相談して、入院するかどうかの判断をしています。	重度化した場合の対応について、特養などの施設入所を希望される場合には、事前に入居申し込みをしておかれるように助言してはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、災害発生時の備えとして食材や飲料を備蓄している。	年に2回の災害時避難訓練を実施しています。そのうち1回は消防署に依頼し、訓練に立ち会ってもらい指導を受けています。また、非常時には地域の協力が得られるように近隣に依頼しています。ホーム1階の事務室等に災害時の備蓄として、水、ジュース、食材、卓上コンロを保管しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録には管理者が目を通しチェックを行う。また研修も含めその都度口頭で指導するよう努めている。	管理者は、職員が利用者一人ひとりを尊重しプライバシーを損ねない対応ができるように内部研修を行い、会議で具体的な対応方法を指導するなど工夫しています。職員は利用者が楽しく過ごせるように、気分や感情を大切にしたい支援に努めています。また、記録等は厳重に保管するように職員間で申し合わせています。職員は、採用時に守秘義務に関する説明を受け誓約書を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず本人に説明を行い、納得した上で行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制するような事は全くなく、本人の要望、体調、気分に応じて出来る事を楽しくしてもらっている。又、趣味活動で希望等があれば、提供するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は化粧水と乳液を準備し塗ってもらっている。 行事で外へ出る時は化粧をして出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買物に行ったり、皮むき、千切りなど調理の準備も一緒にしている。配膳、下膳、食器拭きも同様である。	ホームでは職員と利用者が買物に出かけ、新鮮な食材を購入して毎日3食とも手作りにしています。利用者は下ごしらえや配膳、片づけなど得意な場面で力を発揮しています。また、柏餅などおやつを手作りして楽しむこともあります。和食レストランに出かけたり、ウナギ定食を食べに行ったり、ホームでフルコースの料理を作って楽しんだりしています。行事として食事会を催す場合もあり家族にも参加を呼びかけて、家族と共に食事を楽しまれる利用者もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が少ない時には、チェック表に記録し、職員全員が把握するようにしている。目標量に近づけるようケアに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指導のもと、個々に応じた口腔内清掃をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回排泄表に記入、排泄パターンを把握し、全員がトイレで排泄できるようにしている。 夜間はリハビリパンツとパットを着用しているがほとんどだが、日中はパンツに履き替え、対応している方も多い。	職員は利用者全員がトイレで排泄できるように時間を見て声かけするなど、一人ひとりの排泄パターンを把握して自立支援をしています。夜間は配慮しておむつ類を着用したり、ポータブルトイレを活用したり、利用者の状況に合わせた対応をしています。おむつ類を使用した後は汚れた部分をシャワーで流すなど清潔支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操と散歩、水分量の確保に努め、便秘時は腹部マッサージをするなどして、出来る限り自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と順番は決めているが、その時の体調や気分によって柔軟に変更し対応している。	利用者全員が週に3回入浴ができるようにしています。入浴を好まれない場合もありますが、タイミングを見て勧めないようにしています。また、家族の協力を得て、馴染みの銭湯に出かけて楽しむこともあります。風呂上がりには化粧水や乳液を用意するなどして美容にも配慮し、利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休息が必要な利用者には、自由に昼寝等が出来るように声を掛けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は直ぐ確認できる場所に置き、内容の把握に努めている。配薬時には名前、曜日、個数等を必ず確認し、誤薬の無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識を持ってもらうために、家事仕事を毎日行っている。又毎日の散歩や暖かい日は日向ぼっこもしている。昔懐かしの歌番組を流したりして、楽しく過ごせるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より神社やスーパーに出かけ、時には喫茶店やレストランまでおやつを食べに出かけている。	利用者は職員と毎日のように散歩や買物に出かけています。すぐ近くにある喫茶店でお茶を飲んだり、レストランでおやつを食べたりして楽しむこともあります。利用者の希望で電車に乗って遠くへ出かけ、デパートなどを見て回り楽しむこともあります。天候等により散歩が困難な場合には、通路に面した前庭のベンチ(和みベンチ)に座り、気分転換しながら、行きかう人々とあいさつを交わしたりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には、財布を持ってもらい、買物の際に自分で支払いをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者から希望があればいつでも電話の使用や手紙を出す支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ローカには季節に応じて壁画を飾ったり、写真を張り出して、皆さん立ち止まって見て楽しまれています。お風呂には「和みの湯」と称して温泉気分に入れるようにしている。	ホーム周辺は通路や民家のガレージで三方は家が隣接しておらず、車がほとんど通らない風通しの良い場所にあります。ホーム前には3人掛けのベンチを3つ並べて、利用者や道行く人々の休憩所になっています。2階建てのホームにはエレベーターがあり、食堂兼居間にはソファベッドを置き、和室も併設して利用者がゆっくりとお昼寝することもできます。トイレは職員用も含めて5カ所あり、ゆっくり使用することができます。共有空間は明るく清潔で季節を感じさせる紫陽花、貼り絵や日めくりカレンダー、利用者の写真や作品なども展示され、家庭的で和やかな雰囲気があります。	2階の廊下に転倒防止のための手すりを増設してはいかがでしょうか。職員間ではすでに検討をしていますが、今後は利用者の使いやすい高さに調整するなど、更なる検討が期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶をしたり、テレビを見たりする和室でくつろげるスペースがある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していたタンスや鏡台等を居室に置いている。	居室の扉には、利用者に分かりやすく氏名や写真が表示されています。居室は清潔に整頓され、タンスや鏡台、仏壇や写真、ぬいぐるみなど利用者にとって大切なものを揃えています。また、夜間にはポータブルトイレを置いて利用者の利便も図っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事を把握し、家事の手伝い、習字、塗り絵、漢字やことわざの勉強など個々の能力に合わせて行っている。		